

「言語の芸術」

とはなにか

四十歳で一万冊を読破した無類の読書家にして、彫琢された文
体で織りなす深い思索に満ちた小説で知られる芥川賞作家、諏訪
哲史さんに、文学の新しさとは何かについて語って頂きます。

一方、旅のマニアでもある諏訪さんは若い頃、世界五十ヶ国を
旅した経験もあります。さまざまな経験に裏打ちされたお話は人
を惹きつけて放しません。

学部生、他研究科の院生もふるって聴講してください。

《日時》

11月13日 (月)

15:20~17:00

《場所》

明治大学

和泉キャンパス

和泉図書館ホール

《講師》

諏訪哲史氏

【コーディネーター】

高遠弘美 商学部教授

【講師プロフィール】

諏訪 哲史(すわ・てつし)

1969年生まれ。小説家。國學院大學で種村季弘に師事。
卒業後も種村の指導を受ける。しばらく名鉄に勤務。大学時代
から鉄道などで全国を回ったほか、世界五十ヶ国を旅する。

1998年に書き、種村に称賛された小説「アサツテの人」
を、師の死後、2007年になって発表。群像新人文学賞・
芥川賞を同時受賞する。四十歳で一万冊を読破した読書家でも
ある。以後、多数の作品を発表。哲学的思索に満ちた彫琢され
た文体はきわめて高く評価されてゐる。

他の著書に、

『りすん』(2008年、講談社、2011年、講談社文庫)

『ロンバルディア遠景』(2009年、講談社、2012年講

談社文庫) 『領土』(2011年、新潮社) 『スワ氏文集(す

わしもんじゅう)』(2012年、講談社) 『偏愛蔵書室』

(2014年、国書刊行会) 『うたかたの日々』(2017年、

風媒社)
編著に、種村季弘や日影丈吉のアンソロジーなどがある。

予約不要…学部生の受講可

※学外の方も受講可能です。事前にお電話ください。

【教養デザイン研究科 03・5300・1529】